

SHOW HEY シネマルーム

★★★★

トレーニングデイ

2001 (平成13) 年10月25日鑑賞

Data

監督：アントニー・フークワー
出演：デンゼル・ワシントン／イー
サン・ホーク／スコット・グ
レン

👁️👁️ みどころ

警察官にとって麻薬捜査官は憧れのチームであり、また出世コース。きれいごとではすまない、ハードで、場合によれば、悪に手を染める仕事とはわかってきた。しかしその内実は……。はるかに予想を超える「仕事」……。長い長いトレーニングデイの1日だった。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ロス市警の麻薬捜査官>

「マルコムX」「ハリケーン」などの作品で、圧倒的な存在感を見つけた俳優デンゼル・ワシントンが、ロス市警のアロンゾ刑事に扮し、麻薬捜査官チームの長として新米刑事のジェイク（イーサン・ホーク）をトレーニング。その1日を描いたのがこの「トレーニングデイ」という映画。一体どんな映画かなど興味が湧いてくるが、新聞記事では「ロス市警伝説の刑事は、[怪物] だった!」「新人刑事の勤務初日ー彼とあなたの正義が試される24時間(トレーニングデイ)。」とある。

一体、アロンゾ刑事は正義の人なのか、それとも悪人なのか?

麻薬捜査官の仕事ともなると、きれいごとだけではすまないことはわかる。つまり要は、「情報」が勝負の決め手。従って、ガサネタを流したり、スパイとして潜入したり、罠を泳がしたり、軽い罪を見逃す取引をしたり、金で買収したり e t c . . .

しかし、「スパイとばれたらダメだから自分も大麻ぐらい吸わないと……」とか、「判事を買収して捜査令状をとるから、麻薬捜査官も強盗まがいのことぐらいしなければ……」とか、ここまでの話しになると、「本当かな……」と思ってしまう。しかし、デンゼル・ワシントン扮するアロンゾ刑事が自信たっぷりに説明するのを、新米刑事へのトレーニン

グだと思って観ていると、これらの話には妙に「説得力」がある。新米刑事のジェイクも疑い、反発しながらも、次第にアロンゾ刑事の手の内へ・・・。

<デンゼル・ワシントンの悪役ぶり>

しかし、実際の話はもっと複雑だったし、アロンゾ刑事は、もっと悪人だった。アロンゾ刑事たちのために、それまで泳がされていた「情報屋」の密売人は殺され、密売人がため込んでいた大金もアロンゾ刑事たちが巻き上げてしまう・・・。そしてジェイクも金を受け取るように「強要」され、アロンゾ刑事の思いどおりの、裁判用の筋書きも説明される。果たしてジェイクは、これにも従うのか。そして、これに従えば本当に一人前の麻薬捜査官になれるのか？

アロンゾ刑事とジェイクの2人を中心にストーリーは展開するが、前半はほとんどアロンゾ刑事がリード。しかし後半になると、ジェイクの意思や主体性も見えてくる。

そして最後に流れる「ロス市警の刑事死亡」のニュース。それはジェイクではなく、アロンゾ刑事だった。その死にざまは壮絶。長い1日のトレーニングを終え、生き残ったジェイクの顔は1日で別人のようになっていた。それも当然だろう。こんなハードなトレーニングデイを過ごせば。

男性向けの楽しめるハードボイルド映画としておすすめ。

2001（平成13）年10月記